

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|--|-------|------------|
| 事業所番号 | 4074900103 | | |
| 法人名 | 有限会社 桃李 | | |
| 事業所名 | グループホーム くもじ | | |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県遠賀郡芦屋町西浜町5番26号 (電話) 093-221-2121 | | |
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部 | | |
| 所在地 | 北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年5月21日 | 評価確定日 | 平成21年6月24日 |

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-----------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 14 年 5 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 16 人 | 常勤 7 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 4.5 人 | |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-------|-------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り | | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ | 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-----------------|
| 家賃(平均月額) | 45,000 円 | その他の経費(月額) | (水光熱費) 12,000 円 |
| 敷金 | 有(90,000円) | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(45,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,000 円 | | |

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 16 名 | 男性 4 名 | 女性 12 名 |
| 要介護1 | 6 名 | 要介護2 | 8 名 |
| 要介護3 | 1 名 | 要介護4 | 1 名 |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 86.4 歳 | 最低 74 歳 | 最高 99 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------|
| 協力医療機関名 | 聖和会クリニック・永井歯科医院 |
|---------|-----------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雲の間から光が地上に差す様子を表す『くもじ(雲路)』というこのグループホームの名前には、長い間、社会に貢献してこられた入居者の方々の日々の暮らしが、いつまでも輝き続けるようにという思いが込められている。開設7年目を迎え、同じ年月を重ねたベテラン職員を中心として、より良い介護を目指した熱心な取り組みが重ねられている。また本人と家族の関わりを大切に、家族参加の行事には近隣の方々やボランティアも参加するなど、地域の一員として西浜町の住民の方々との暖かい交流がある。今後も苑の方針である入居者の自立と尊厳を柱に、思いやりと優しさを大切に支援を行っていきたいと考えている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の教育については法人の教育委員会により、経験や習熟度に応じた年間教育計画を作成し、職員全員の参加を促しサービスの向上に繋げている。鍵をかけないケアの実践については、普通の暮らしへの支援としてセンサーは使用せず、入居者の安心と安全確保の取り組みを行っている。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>鍵をかけないケアの実践については継続課題としている。その他今回の外部評価や家族のアンケートの結果を基に検討課題を抽出し、スタッフ会議や運営推進会議での議題として話し合い、改善に向けて取り組んでいく予定である。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>入居者や家族、ボランティアの方々の参加など、幅広いメンバー構成により、2ヶ月に1回定期的に開催されている。苑の状況報告・改善経過報告(警報機の増設・地区盆踊りへの参加・自動車乗降時の踏み台購入など)等を行い、運営課題についての助言を得る等、活発な意見交換がなされている。</p> |
| | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>入居者・家族も運営推進会議のメンバーとして出席しており、意見や要望を伝える機会となっている。また個々の家族に対しては、面会時の声かけや御意見箱・相談窓口の説明を行い、要望や意見に対しては直ちに対応するよう心掛けている。</p> |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として自治会や商工会に加入し、入居者と共に地域のお祭りや盆踊り、救命講習やゴミ広い・廃品回収などに参加している。また公民館を利用して、近隣の方々やボランティアの方々との花見敬老会やクリスマス会などで交流を図っている。ベルマークや缶タブの収集も行っている。</p> |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|-------|-----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 | 入居者の尊厳を守る生活援助に最善を尽くし、地域社会との共同による高齢者福祉に寄与する事を事業の目的としており、法人全体の理念を「生活を共にし、心を支え、生命をいつくしみ、人間らしく生きる事を支援する」と示している。 | | |
| | | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み | スタッフ全員で1年間の目標を決め、それに向かって一人ひとりの職員がそれぞれの立場で助け合い、努力する事が入居者の心豊かな生活を支える事になり、それが理念の共有と遂行につながると考えている。 | | |
| | | 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい | 住宅地の一面に位置した事業所であり、地域の方々と交流は入居者の生活支援に欠かせないものとなっている。地域の一人として自治会や商工会に加入し、地域の方々の暖かな支えにより、入居者と共に地域行事や運営にも参加している。 | | |
| | | 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 | 運営者は常に『選ばれる施設 = 良い「くもじ」』である事を願っており、改善策への取り組みなどを積極的に支援している。職員もその事を十分に認識しており、全員で自己評価に取り組むと共に、評価後の検討課題を共有し、改善への取り組みを行っている。 | | |
| | | 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み | 入居者や家族、ボランティアの方々の参加など、幅広いメンバー構成により、2ヶ月に1回定期的に開催されている。苑の状況報告・改善経過報告(警報機の増設・地区盆踊りへの参加・自動車乗降時の踏み台購入など)等を行い、運営課題についての助言を得る等、活発な意見交換がなされている。 | | |
| | | 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | | | |

グループホーム くもじ

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|-----|---|
| 6 | 9 | 市町村との連携 | 町役場へは入居者の公的手続きの代理等で、頻繁に訪れている。また運営推進会議の議事録や機関紙、事業所の空き状況などの情報提供を行い、協働関係を築いている。 | | |
| | | 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | | | |
| 7 | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 | 権利擁護に関する学習会を毎年行い、理解を深めている。入居者や家族に対しては、日常生活自立支援事業や成年後見制度の説明パンフレットを常備しており、今後は事業所として入居者の支援が適確に出来るよう努めていきたいと考えている。 | | 必要な時に活用できる体制づくりに取り組んでいる。独居や高齢者夫婦世帯の増加により、入居者だけでなく、家族や地域の方々への情報発信により、地域との連携を深めていきたいと考えている。 |
| | | 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。 | | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | 家族等への報告 | 毎月の請求書送付時に、入居者の近況報告として手紙と写真を添えており、預かり金元帳のコピー及び「くもじからのお知らせ(行事案内・職員異動など)」も同封されている。日頃の家族の面会時にも状況を伝えており、遠方の方には電話連絡を行うなど、家族との関係を大切にしている。 | | |
| | | 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | | | |
| 9 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 | 入居者・家族も運営推進会議のメンバーとして出席しており、意見や要望を表せる機会となっている。また個々の家族に対しては、面会時の声かけや御意見箱・相談窓口の説明を行い、要望や意見に対しては直ちに対応するよう心掛けている。 | | |
| | | 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | | | |
| 10 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 | 苑の方針として職員全員で入居者の方々との馴染みの関係を築いている。職員の個々の事情や希望により、勤務時間や時間帯の調整に柔軟な調整を行い、継続して勤務しやすいように配慮をしている。 | | |
| | | 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | 人権の尊重 | 職員採用については特に制限は設けてない。現任の職員については、園芸・菜園・料理などの得意な事を苑でのケアで活かして貰っている。また資格取得には法人としても支援しており、講習会の参加についても勤務調整を行っている。 | | |
| | | 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。 | | | |

グループホーム くもじ

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| 12 | 20 | 人権教育・啓発活動 | 教育計画に盛り込み毎年実施している。日本国憲法にもあるように、人権尊重は入居者・職員全てに対する権利であるので、まずは常日頃からお互いが一人ひとりの人格を尊重し対応する事を職員全員で実践に努めている。 | | |
| | | 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。 | | | |
| 13 | 21 | 職員を育てる取り組み | 各事業所の代表と法人の教育担当者による年間教育計画を作成し、教育内容や方法について検討を行い、それを基に事業所内で定期的な学習会を行っている。新人教育は年間を通して実施しており、外部研修については習熟度や経験に応じて参加している。 | | |
| | | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | | | |
| 14 | 22 | 同業者との交流を通じた向上 | 運営者は同業者との交流や連携については十分に理解しており、全国GH協議会へは毎年職員が出席している。また外部研修への参加も奨励しており、他の施設の方との交流や学習会なども行っている。お互いが刺激し合い、サービスの向上に役立っている。 | | |
| | | 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | 馴染みながらのサービス利用 | 入苑前に職員2名で自宅や施設を訪問し、情報収集や顔馴染みの関係を作っている。時として近隣の方との交流により情報を得る場合もある。本人が少しでも安心して入苑できるよう体験入苑も行っている。 | | |
| | | 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係 | 職員の体調を心配してもらったり、また連休明けで出勤すると大変喜んでくれたり、家族のように支えあう関係が築かれている。職員も同様な気持ちであり、最期まで支え合う関係でありたいと考えている。 | | |
| | | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | | | |

グループホーム くもじ

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|--|---|-----|----------------------------------|
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | 思いや意向の把握 | 個人の思いや希望が実現するように支援する事を日頃から心掛けており、家族や医師・職員と相談し、個別的なマニュアルを作成し実践している。例として一人での散歩・カロリー制限者の大盛りラーメンの摂取希望・飲酒などがある。また入居者の表情や言動から要望を見出し、スタッフ会議で共有している。 | | |
| | | 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画 | 入居者・家族の要望を大切に、「自分らしく生きる」「地域で暮らす」という視点を基本に作成している。個別的な支援になる事を目指し、職員一人ひとりの気づきや意見を取り入れたアセスメントシートを作成し、創意工夫を取り入れた計画となっている。 | | |
| | | 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | | | |
| 19 | 39 | 現状に即した介護計画の見直し | 計画の見直しについては入居者の状況変化に対応した計画の作成を第一と考えており、家族の要望を伺ったり職員間のカンファレンスでの意見交換等も行い、より個別的な支援になるよう心掛けている。 | | |
| | | 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 20 | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援 | 健康管理や緊急時の対応は24時間体制で行い、退院指導なども家族の了解を得て同席している。医療以外では入居者の希望により、普段行けない場所への外出の支援を、行事計画を作成し行っている。地域の高齢者については生活相談も気軽に受けており、中学生の職場体験の場としても受け入れを行っている。 | | |
| | | 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | かかりつけ医の受診支援 | 本人・家族の希望による医療機関への受診を第一に支援しており、家族が多忙な場合などは職員が通院介助を行っている。受診時には必ず健康管理シートを持参し情報提供を行うと共に、家族への報告を行っている。苑へは月2回の往診があり、常日頃より医師との連携に努めている。 | | |
| | | 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | | | |

グループホーム くもじ

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| 22 | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 | 重度化や看取りについては入苑時に方針を示すと共に、事業所として本人・家族が求める支援を最大限行う事を説明し、不安解消に努めている。職員にとって、これまでの看取りの経験も、日々の心の支えとなっている。 | | |
| | | 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | プライバシーの確保の徹底 | 接遇については定期的な学習会を行っており、日頃の対応については目立たずさりげない言葉掛けや支援を心掛けている。記録類は鍵のかかる棚に保管している。個人情報については必ずシュレッダーでの破棄を行っている。 | | |
| | | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | | | |
| 24 | 54 | 日々のその人らしい暮らし | 入居者一人ひとりの状態の把握に努めており、生活のリズムに合わせた支援を行っている。それぞれが自分の希望する事や出来る事を(散歩・買い物・調理の手伝い・掃除など)職員と共に行い、服装や髪型なども希望に沿うよう支援している。 | | |
| | | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | 食事を楽しむことのできる支援 | 食事の準備から後片付けまでの一連の流れは、職員との共同作業であり、入居者の力が発揮される大切な時間と思っている。一緒に食卓を囲む事で話が弾み、和やかな場面となっている。 | | |
| | | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | | | |
| 26 | 59 | 入浴を楽しむことができる支援 | 入浴時間や回数はある程度決められており、最低基準としている。希望に応じて、また体調に影響がない範囲で、時間・温度・順番など考慮し、柔軟に対応している。季節の菖蒲湯やゆず湯なども大切な行事として行っている。 | | |
| | | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | | | |

グループホーム くもじ

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 | 生活歴や職歴を把握し、日頃の会話でも常に入居者の自己決定となるように声かけを行い、少しでも自発的な行動が出来るよう支援し、それが楽しみや気晴らしになるように支援している。 | | |
| | | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | | | |
| 28 | 63 | 日常的な外出支援 | 毎日の散歩は入居者の楽しみとなっており、その時に好きなお菓子や飲み物の購入も行っている。食材についても職員と一緒に買い物に出かけ、できるだけ外気に触れる事を支援している。時として一人での散歩も行われており、近隣の方々へはさりげない見守りをお願いしている。 | | |
| | | 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | 鍵をかけないケアの実践 | 鍵をかけないケアの実践は、最大の課題として全職員周知しており、「玄関開錠記録表」を作成し、可能な限り玄関の電気錠を開錠する取り組みを行っている。少しずつ開錠時間が延びており、昨年末には平均して10時間を超える開錠となっている。 | | |
| | | 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | | | |
| 30 | 73 | 災害対策 | 年2回、消防署・近隣の住民の協力を得ながら避難訓練を実施し、食料や飲料水の備蓄も行われている。災害毎のマニュアルも作成し、周知徹底している。運営推進会議でも議題として検討し、助言を頂いている。今年度はスプリンクラーの設置について実現に向けた検討を行っている。 | | |
| | | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援 | メニューは管理者が作成しており、管理栄養士の点検指導を受けている。個人の摂取状況について把握しており、なるべく全量摂取出来るよう個別に工夫を行っている。特にカロリー制限者の空腹感への支援は配慮を行っている。 | | |
| | | 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | | | |

グループホーム くもじ

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|---|-----|----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | 居心地のよい共用空間づくり | 入居者・職員の協力により、清潔感のある共用空間づくりが行われている。また移動動作が少しでも自立出来るよう、手すりやドアなどに安全面の工夫が見られる。心の支えとして小さな仏壇を置き、ローソクも立てられるようにしている。自然に近い換気や空調を行い、季節感のある掲示物や花、外出時の写真などを掲示し、心地よい生活空間としている。 | | |
| | | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |
| 33 | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 | 本人・家族が希望する、好みの物や馴染みの物により、自宅との変化が少ないように支援している。仏壇や机が持ち込まれ、家具の配置の工夫や掃除を、入居者と職員で共に行い、その人らしい生活の場となっている。 | | |
| | | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |